

患者さんとのコミュニケーションに 役立つ一冊！



あごひげ先生に聞いてみよう！ 口と歯の疑問と悩み 歯科についてのセカンドオピニオン

小西昭彦 著

B6判/184頁 定価(本体2,800円+税)
医歯薬出版刊(2013年8月発行)

東京都中央区・ナオ歯科クリニック
評・牧 宏佳(歯科医師)



近年、「セカンドオピニオン」を求めて来院される患者さんが増えているように感じます。その背景には、多くの歯科医院の存在、インターネットをはじめとする医療に関する情報過多、口腔内への健康に関する意識の変化などさまざまなことが考えられると思いますが、そのなかでも、著者が本書冒頭に指摘している「患者さんと歯科医師のコミュニケーション不足」という点については、医療従事者としてもっとも考えなければならないことだと思います。「なぜ、コミュニケーション不足になるのか?」、そして「どのようにコミュニケーションをとっていくのか?」という問題の解決方法が本書には余すことなく述べられています。

本書では、口腔内の健康を維持するためのブラッシングの基本から始まり、小さなカリエス処置、歯髄保存療法、抜髄、感染根管治療、抜歯といった処置と「歯の一生」を順に説明してあり、

誰が読んでも“自分の歯が現在どのステージにいるのか”が理解できるようになっています。また、日常臨床で患者さんからよく寄せられる質問について、ステージごとに解説してあり、その内容が実際の患者さんとの会話形式で解説されているのが本書の最大の特徴だと思います。

多くの歯科医師、歯科衛生士が、「どのように説明したらよいのだろう」「患者さんは理解してくれているのかな?」と、一度は疑問に思ったことがあるはずですが、本書を読めば、患者さんに伝わりやすい表現というのがどのようなものなのかを理解できますし、会話形式で書かれているので誰でもすぐに臨床に応用できます。そして何よりも、著者の表現には、「治療は患者さんとともに行うもの」という思いが随所に含まれている点にも注目すべきです。

最近の医療は、「検査データばかりをみて患者をみていない」といわれることさえあります。「患者をみる」ということは、「人を見る」、つまり患者さんとの人間関係があってこそ「みる」ことができるのです。まさに、「医療の基本」ともいえるものではないでしょうか。日々の臨床のなかで、忙しさのあまりに、忘れがちになる「医療の基本を思い出さない」ということを、本書を通じて著者は強調されているのだと思います。

現代歯科医療の基盤となっている歯周治療とメンテナンスにかかわる歯科衛生士は、多くの時間を患者さんと共有していかなければなりません。患者さんとのコミュニケーションをはじめとして、「患者さんとともに歩むためには何が必要か」という疑問の答えを本書は導いてくれます。

ぜひとも一読して、医院スタッフ、患者さんにも勧めていただき、歯科医療とはどのようなものなのかを多くの方に知っていただければと思います。